



## はじめに

このブックレットは、全ての保育者が「よこはま☆保育・教育宣言」を理解し、日々の実践に取り組むとともに、保育の振り返りに活用するために作成しました。

クラス担任同士や乳児・幼児担当同士、または職員全員で園内研修に活用できるように、『考えてみよう!』という問いかけがあります。写真を見ながら自身の園の姿と照らし合わせて、園内で語り合しましょう。

「よこはま☆保育・教育宣言」の  
理解



• 日々の保育実践  
• 家庭・地域との共有



保育の振り返り

## よこはま☆保育・教育宣言

～乳幼児の心もちを大切に～

横浜の保育・教育施設の全ての職員が、  
乳幼児期の子どもに対して何を大切に  
子どもたちと日々関わるかの基本となるものです。



## 共有したい子どもの姿・方向性

### 今と未来を生きる子どもを 育みます

DIRECTION

乳幼児期は、一人ひとりの子どもが自分自身でやりたいことを見つけ、未来を切り拓いていく力をつけていくためにとても大切な時期です。

保育者

- 温かいまなざしを向けます
- 子どもたちが自分では表現できない思いや考えにも耳を傾けます
- 願いや求めに寄り添います

一人ひとりを  
尊重します



子ども

- 自分のよさを認識
- 可能性を信じていることができる
  - 自らアイデアを生み出していく
  - 問題の解決に向けて他者と協働して解決の方法を考えていく
  - 創造的な思考を身につけていく



考えてみよう!

下の2枚の写真から、  
10の姿の中のどんな姿が  
見えますか?



## 認知能力・非認知能力ってな～に？

認知能力  
(例)

- 知識、思考、経験を獲得する精神的な能力
- 獲得した知識を基に解釈し、考え、未知のことを推測・予測すること
- 記憶力
- 考える力
- 概念化すること
- 身近なものの特徴に気づく など

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 豊かな感性と表現
- 自然との関わり・生命尊重
- 言葉による伝え合い
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



### 非認知能力 (例)

- やりたいことを見つけ、自分なりの方法で取り組むこと
- やりたいことに向かって粘り強く取り組むこと
- 喜びや悲しみを仲間と共感したり、多様さを受け入れたりすること
- 思い通りに行かなくても気持ちを切り替えて新しい工夫をしようとする事
- 経験を通して自分に自信をもつこと など

## 宣言

# 1

DECLARATION

安心できる環境をつくり、  
一人ひとりを大切に保育します



1. 子どもたちの命を守り、一人ひとりの個性や発達に合わせた環境について考えてみましょう。
2. 子どもが自分を「かけがえのない存在」だと感じて日々を過ごすためには、どのような関わりが必要でしょうか。

# 1

安心感・信頼感を大切に、  
子どもを守ります。



考えてみよう！

子どもが安心できる場や  
信頼できる関係をつくるには？



乳幼児期に温かく受容的・応答的に関わることで、子どもたちが安心できる場や信頼できる関係を作ります。

うまくいかなかったり、不安になったりした時に、気持ちを受け止め、安心して戻れる場や関係を作ります。

# 2

子ども一人ひとりを  
受け止めます。



考えてみよう！

子どもが安心して自分らしさを出したり、自己肯定感を持てるようになるためには何が必要？



子どもは一人ひとり違います。目の前の子どもを理解し、ありのままの姿を大切にし、受け止めます。

様々なことに挑戦する中で、やりたいことを見つけたり、じっくり取り組んだりしていきます。

### 3

子どもが様々な人と関わることを大切にします。



考えてみよう!

協力することの楽しさや、  
他者を信頼する気持ちはどうやって育つ?



色々な人と関わることで、お互いに思いを伝え合うこと、ぶつかること、折り合いを付けることも必要です。

自分ではできないようなことに憧れを感じ、様々な体験が広がるように、多様な人と一緒に活動することができる環境をつくります。

## 宣言

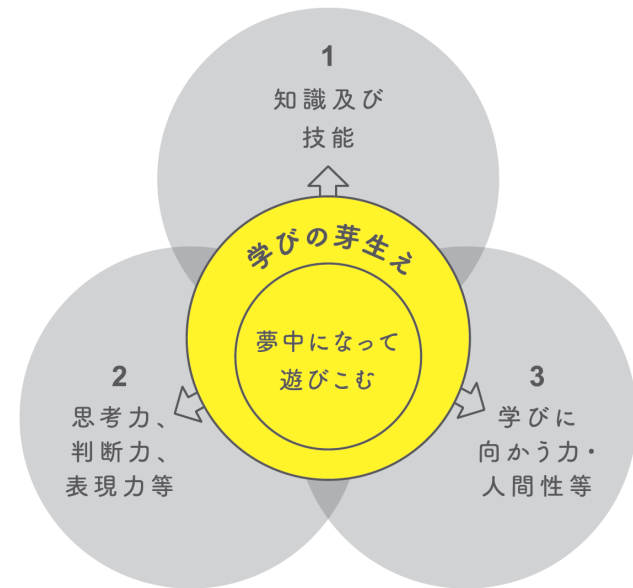
# 2

DECLARATION

### 子どもの育ちと学びを支える 主体的な遊びを大切にします

乳幼児期の育ちと学びが生涯にわたる生きる力につながるためには何が大切ですか?

→「未知なことや分からないことを自分なりに考え、自分自身が納得するまで探究し続けること」ができるような遊びや体験です。



子どもたちが、主体的に周りの環境に関わり、夢中になって遊びこむ中で、様々な学びの芽生えが見えてきます。

→ 生涯にわたる生きる力を育みます。

# 1

乳幼児期の子どもが、豊かで多様な環境と  
関わりながら育つことを大切にします。



考えてみよう!

子どもが育つために必要な環境って？



- 一緒に過ごす大人や子ども同士などの「人」
- 施設や遊具・素材・道具などの「場やもの」
- 自然や社会などの「事象」
- 試行錯誤やじっくり取り組むための「時間」

など



子どもにとってより良い環境をつくるために、子どもの気持ちを大事にして、一緒に取り組みます。

# 2

夢中になって遊びこむことによる  
育ちを大切にします。



考えてみよう!

子どもが夢中になって遊びこむ環境とは？  
その環境で子どもはようになる？



多様な出会いや気づきが起こる環境の中で、子どもが「なぜ」「どうして」などと試行錯誤や探求を繰り返す遊びができるようになります。



夢中になって遊びこむことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が総合的に育ちます。  
(P3、4参照)

• 保育者は、日々の振り返りを通して子どもの姿をとらえ、より良い保育につなげます。

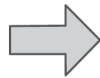
### 3

保育者の重要な仕事は一人ひとりの  
子どものよさを発見し、育てることです。



考えてみよう!

子どもとの信頼関係をつくるためには?

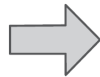


一人ひとりの子どもの姿に驚き、  
よさを発見することで、受容  
的・応答的に関わります。



考えてみよう!

子どもが安心して遊びこめる環境を作るために、  
保育者はどうする?



保育者自身が子どもと共に楽  
しみ、対話し、振り返り、考えな  
がら関わる中で専門性を向上  
させます。

- 保育者同士が保育について語り合う場を作り、  
子どもの育ちや学びを共有します
- 子どもの育ちを家庭や地域に伝えていきます



### 幼保小の連携

乳幼児期の育ちと学びを受け止め、  
小学校以降の教育につなげます

COOPERATION



乳幼児期の「学びの芽生え」は、小学校低学年の「自覚的な  
学び」の基盤になります。

保育・教育施設と小学校とが顔の見える関係を築き、円滑な  
接続につなげます。

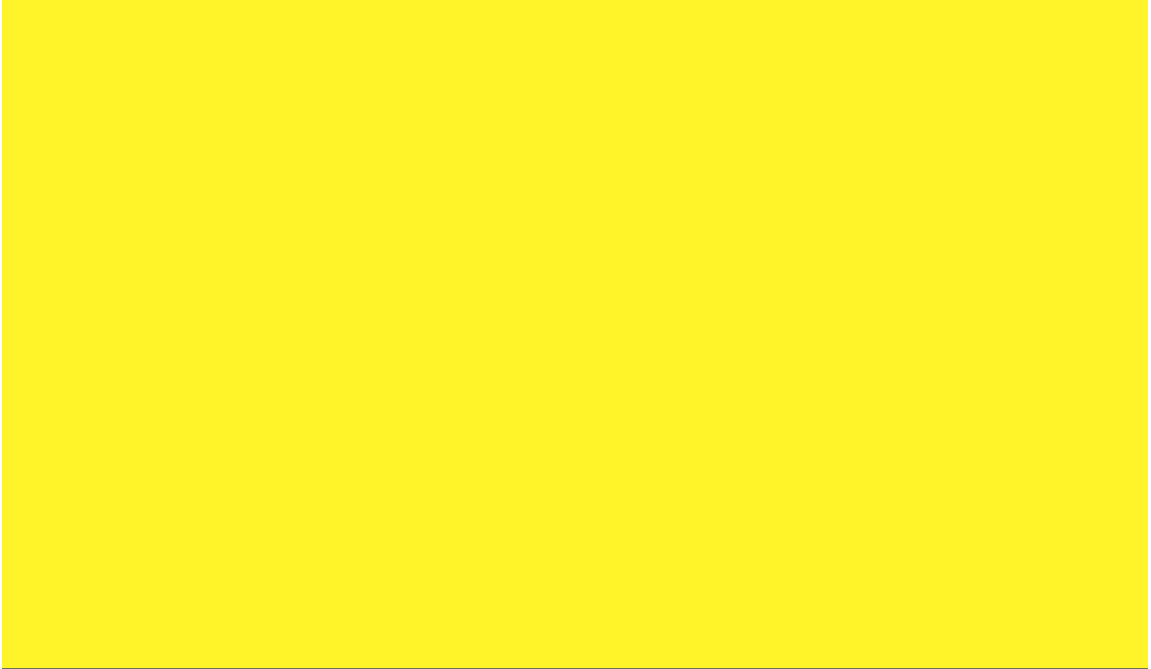
## 保育・教育施設

- 乳幼児期ならではの「今できること」を大切にします。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の芽生えを手がかりにして、子どもの成長の様子を小学校につなげます。



## 小学校

- 乳幼児期の子どもたちの成長の様子を受け止めます。
- 子どもたちの安心感と主体性を大切に「スタートカリキュラム」を行います。
- 乳幼児期に培った力が教科等の学習でも存分に発揮できるようにしていきます。



### 「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」協議会 構成員

白梅学園大学大学院 特任教授	無藤 隆	玉川大学教育学部 教授	大豆生田 啓友
横浜市幼稚園協会 会長	木元 茂	横浜市社会福祉協議会 保育福祉部会 代表	佐野 健一
横浜市幼稚園協会 副会長	渡邊 英則	横浜市私立保育園園長会 会長	大庭 良治
小学校長会 代表	寶來 生志子	横浜市社会福祉協議会 横浜保育室部会 代表	松原 慶子
横浜市立園長会 代表	藤代 弥生	小規模保育事業 代表	中陳 亜希子